

大崎市議会議員 小玉ひとし市議会レポート おおさきのミカタ

大崎市の玄関口
古川駅周辺を考える。

おおさき、より良く、
おもしろく！



大崎市議会議員 小玉仁志

生年月日：1984年4月2日

家族構成：妻、男子3人

学歴：古川第三小学校、古川中学校、

古川高校、東北学院大学経済学部卒業

役職：志田東部地区振興協議会顧問、

全国胃がん患者会一般社団法人igan.net

副理事長 など

議会での役職など

・建設常任委員会 副委員長

・情報化対策特別委員会

・大崎地域広域行政事務組合議会議員



産業構造の変化とともに姿を変えてきた古川駅

1940年代、食糧や材木の需要から米作、製材を中心とした農林業が栄え、米・酒、農作物、材木などが古川駅から全国に向けて出荷されていた。それに伴い商圈、都市機能が駅周辺に集中し、街が形成され一時代を築いた。



近代化の影響と駅周辺の変化

1982年新幹線駅が開業、首都圏へのアクセスが良好になりビジネスも多様化した。小売業や観光業へ注力するようになり政策推進も力が分散化している。(この頃から一次産業の従事者の数が減少していく。) 現在の古川駅周辺はこの時代から大きな変化は無い。

古川駅周辺の基礎調査事業始まる！

自治体や住民、JRなど多様な関係者がある中で、合意形成をとりつつ議論を前に進めることは簡単ではない。とはいえ地域から多くの声も寄せて頂いている。(22年には市民による任意の研究会も発足、市長へ要望書提出) 実現するにあたり必要な調査業務を実施できるのは一般的にも自治体が大きな役割を担う。議員任期後期に建設常任委員会に所属し、その必要性を強く訴えた。基礎調査業務を早期に実現して頂いた事は大きな一歩と考える。

市役所におけるいわゆる“管轄”は一般的にはあまり知られない。駅周辺三建設部、駅中二産業経済部、という括りであるのは議員として取組を始めてから知ったことである。利用者にとっては認識しにくいことだが、議論を前に推し進めるにあたっては互いに協力して歩調を合わせることが理想的だ。今回はあくまで駅周辺の基礎調査事業だが機運を高め、理想的な駅前、駅中にするため部局横断的な会議の進め方にできるよう注視し、努めていく。

ほなみ親水公園の除草の訴え、伊藤市長から「計画的実施を行う。」と回答頂く！

本公園により近い穂波、西荒井、米倉地区の皆さまから多くの要望をいただいていた敷地内の“ヨシ”的伐採・除草についてR7第3回定例会の一般質問において、伊藤市長より定期的に実施していく旨の答弁をいただきました。新しい議場になって初めて写真をモニターに投影しての訴えとなつたことは現状をより理解してもらうことの一助とできました。今後地域と話し合いながらより良い計画にするとの回答もあり、しっかりとその経過も追求してまいります。



*2025年9月11日現在
ベンチが水没し、ヨシが群生するほなみ親水公園の様子

1000のビジネスを地域から！2025大会開幕！



地域に活気と雇用を生み出す取り組みの一環として、今年もおおさきオープンイノベーションピッチ2025を開催します。昨年より多い国内外88社の企業や学生から大崎市を盛り上げるアイデアが提案され11月27日決勝戦を迎えます。

高校生版コンテストも初開催！

人財育成への貢献も！

昨年の大会後、ぜひ地域の学生たちにも機会と経験を。という声が大きくなり、これを受けて今年から学生向けイベントも開催いたします。これらのイベント趣旨に賛同してくれた大崎出身の在京者や起業家がふるさと納税を通じて活動を支援してくれています。故郷を思う気持ちと地域課題を繋ぎ、循環させるエコシステムを作ることも活動の一つです。

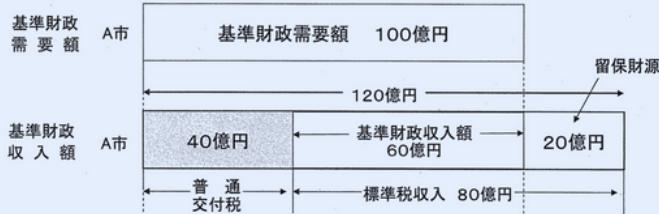


ふるさと納税を最大限に活用しよう！PRとストーリー作りに注力！



株式会社Macbee Planet千葉様（吉川高校卒業）より企業版ふるさと納税の寄付贈呈

◆普通交付税の仕組み



ふるさと納税が基礎自治体における優位性の高い財源であることは実はあまり知られていません。自治体が年間で必要な運営予算を市税等の収入+国からの交付税で100%に整えますが、ふるさと納税は留保財源として交付税の算定措置に影響のない財源として利用できます。自治体運営に独自性をもたせるにはとても魅力的な財源です。この仕組みを個人・企業にPRし、延1,000万円を超える金額を議員活動を通じて市にご寄付いただきました。財源確保が困難な情勢において工夫した確保策を自治体とともに実践できたことは大きな経験でした。今後も国の制度理解を深めるとともに、一緒に汗して稼げる自治体になるよう、より一層努めてまいります。

小玉仁志議員活動報告



活動特集



古川北部にあるソーラーシェアリングを実践する会社を訪問。「農業だけでは充分な収入が得られないことは理解していた。生産地として継続できる仕組みづくりを研究したい。」と意気込む東北大学（理工学部、法学部学生）インターンシップの二人。

インターンシップ活動の受け入れ実施

小玉事務所では1年に2回議員活動や地方創生の現場を学びにくる学生を受け入れています。今回は鳴子温泉地域での温泉地の今後の可能性を模索するセッションへの参加、古川地域の皆様への活動報告会・意見交換会への帯同、フィールドワークでは農業分野におけるソーラーシェアリングの現場取材、その他にも田んぼからCO₂排出量を削減するスタートアップ会社へのオンライン取材や決算質疑・一般質問の議会傍聴など、普段から小玉が行う現場取材や議員活動の始終を見ていただきました。学生の皆さんのおかげで、今後の活躍を応援しています！

【企画・編集】小玉ひとし後援会～未来そうぞう堂

所在地：宮城県大崎市古川穂波4丁目16-25

メール：urabatake@icloud.com

電話：090-6453-1063（議員直通）



HITOSHI.KODAMA